| 給水源確保の経緯（官邸からの要請） | |
|---|---|
| | 本店高橋フェロー：<br>「残りの２台は？」<br>本店高橋フェロー：<br>「本当につまらない話をして申し訳ないんだけど、官邸対応の話だけど、早くその（オフサイトセンターの）<u>２台現場に持って行って何か使ってほしいんだけどさあ</u>」<br>福島第一原発吉田所長：<br>「基本的に人がいない。<u>物だけもらっても人がいない</u>んですよ。南明さん（※会社）がいないんですよ。かなり線量的なものもありますし」 |
| 6:00～<br>7:00 | 逆洗弁ピットにある程度の水がたまったため３号機への注入を再開したものの、６時ごろより炉水位がダウンスケールし、格納容器圧力が急上昇した。このため吉田所長は、注水作業員を免震重要棟に退避させた。 |
| 7:00～<br>8:00 | ３号機は、CAMS（格納容器雰囲気モニタ）で計測したところ、炉心損傷割合は30%と評価された。<br>その後、格納容器圧力が落ち着いたため、ピットに水を入れることを最優先とし、作業を再開した。 |
| 9:51 | 官邸からの要請を受けて、本店から福島第一原発に対して問い合わせが行われている。しかしながら、当該問い合わせ内容は、直前に本店と福島第一原発とで話し合われた結果、本店決定事項とされたものであった。 |
| | 本店：<br>「1F 吉田所長、1F 吉田所長。官邸からの指示が来てまして、15 分以内に連絡くださいということで、連絡してほしいのは海水を入れるプラントの順番。1F3 は今、入れてて。その次は１、２でいいのかということと、それぞれのプラントにどれくらいの流量を入れようとしてるのか。その目安量。順番と目安量を教えてくれと」<br>吉田所長：<br>「それ、<u>今あなた聞いてなかった？ それは本店が決めるって言ったよ</u>」<br>本店：<br>「あ、ごめんなさい。了解しましたよ」 |
| 10:44 | 官邸に詰めている武黒フェローから、吉田所長に対して以下のような指示が行われた。<br>① ３号機を 10t/h で継続して冷却すること。<br>②（２号機より）１号機を優先して冷却すること。<br>吉田所長は、第一運転管理部長に対して、上記官邸からの指示について検討を行い、実施時間を報告するように指示を行った。 |

**表３．１．１−６　給水源確保の経緯（官邸からの要請）**[26]

事故直後における1号機ベント、海水注入などの対応時に生じた不信感と指揮命令系統の混乱がさらにエスカレートし、給水源の確保を最優先するという安全上重要な現場の意思決定に対してまで、官邸や保安院からさまざまな干渉が行われている。本来、本店は、外部からの非合理的な干渉から現場の意思決定や作業の遂行を護る役割を果たすべきであるが、本事故においては、関係各所の意向をそのまま現場に伝え、時には現場の意思決定を考慮せず、官邸や保安院の意向に従うよう要請している。保安院や官邸の要請は、ベントの時間目標の

[26] 東電資料をもとに当委員会作成。下線は当委員会による。